

ガンコ親父の

夕食を食べた後、ごろりと横になった松次郎はすぐにイビキをかきはじめた。イビキのせいで、周りのみんなはテレビの音を聴き取りにくくなった。「まるで、「ゴジラの寝息だ」と息子の学はあきれた。「お父さんはあんた達が贈ったジョキングシューズ履いて、毎朝走っているからね。それから会社でしょ。疲れているんじゃない。もう、歳も歳だし」と貴代はため息混じりに言った。松次郎は無邪気に夢を見ていた。ガー、スーと大きな息を立ててマツジラーは会議場に急いだ。今日は緊急の「怪獣会議」が開かれる日で、会場はすでに多くの怪獣でいっぱいだった。

奄美黒糖焼酎

自分勝手な環境破壊を続けるわがままな人間達に「目を覚ましてもらう」ため、お仕置きを検討する会議だった。最初に発言したのは翼竜だった。昔は空気もキレイで、空を飛んでいても気持ち良かった。ところが近年は、一度舞い上がるだけで、鼻の穴が真っ黒になってしまつほど空気が汚染されている。翼竜は怒りに任せてバサバサと翼を羽ばたかせた。

金星で生まれたという3つの首を持ち、なぜか関西弁の巨大怪獣は首の二つを痛めていた。「宇宙空間を飛ぶときは、隕石や彗星などには気が使つてなんけど、地球の周りだけはどうにもなりまへん。なんや偵察衛星や気象衛星とかがたたくんで危険すぎますわ。おかげでこの始末や」と、人工衛星とぶつかって傷んだ首をさすりながらツツツツ言った。怪獣達の怒りは高まり、人間達に懲罰を加える方向でまとまりかけていた。そのとき、マツジラーは立ち上がり、放射熱線を空に吐き出しながら「ちょっと待ってくれ」と割って入った。確かに我々にとって住みづらくなっている環境を作っているのは人間達だけど、実力行使じゃなくても、話し合いでわかってくれるんじゃないのか?と、マツジラーは言った。

人間達は俺たち怪獣を決して嫌ってない。むしろ俺たちは好かれているんじゃないだろうか。去年だって、シンマツジラーとして復活させてもらったし、ますますファンの数も増えたんだ。親和的な人間とは、仲良くすべきじゃないだろうか。

「それはどうかな。マツジラーはよく人間達から賄賂をもらっているからそんなことを言えるんだ。甘すぎるぜ」と翼竜怪獣はマツジラーをにらんだ。マツジラーが毎年もらっているのは「父の日のプレゼント」で、それを賄賂と言われて頭に血が上った。潔白こそがマツジラーの取り柄であった。それをこの翼竜ごときに、こんな言われ方をされるとは。その瞬間「ンガッ」と自分の大きなイビキで松次郎は目を覚ました。驚いたのは学だった。去年の父の日には『しまっちゅ伝蔵』を2本プレゼントしたが、今年は1本に減らそうかなと貴代に話しかけたときだった。いきなり「ンガッ」と大きな声で目を覚ました松次郎を見て、「オヤジ、ごめんごめん冗談だ。今年も2本にするよ」と学は焦ってしまった。

「この人、本当、美味しい焼酎のことにはうるさいからね」と貴代は笑った。さあ、泣いても笑っても明日は父の日だ。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



900ml (25度)



1800ml (25度)



1800ml (25度)

昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

常圧蒸留

しまっちゅ伝蔵



怪獣に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。